

第2回VFM・リスク分担WGについて（概要）

1. 開催状況

・第2回 VFM・リスク分担WG

日時：平成26年 3月14日(金) 10:00～11:30

場所：中央合同庁舎第4号館4階443会議室

出席者：根本委員(座長)、小幡委員、佐藤委員、宮本委員、
赤羽専門委員、浅野専門委員、石川専門委員、
石田(直)専門委員、江口専門委員、小島専門委員、
廻専門委員

議題：（1）議論の進め方について
（2）従来型事業（サービス購入型）について
（3）今後の予定（案）
（4）その他

2. 委員・専門委員からの意見等

○第2回WGにおいては、既往事例の太宗を占める「従来型事業（サービス購入型）」について議論を実施。

○委員・専門意見からの主な意見等は以下のとおり。

[VFMに関するもの]

- ・ VFMは効果計測や住民への説明責任の観点からも重要であり、サービスの質の計測に光を当てることも大切ではないか。
- ・ 「VFM=コスト削減」という考え方が染みついてしまっているので、定性的な効果も把握して説明すべきではないか。
- ・ 内容点の配点割合について、時系列的な傾向を把握してみてはどうか。
- ・ 内容点に差がつくような積極的な審査を心がけたケースについて、既往事例から実施方法や工夫点を収集しても良いのではないか。
- ・ 支払額削減とサービスの質の向上との違いについて、PFI以外の公

共事業でどのような整理がされているのか参考になるのではないか。

- ・ 事業規模により、大規模なものは精緻化、小規模なものは類型化・簡素化を指向するといった仕分けが必要ではないか。
- ・ サービスの質を評価することについて、それをどのように地方公共団体に浸透させていくのが課題ではないか。その際、サービス水準の向上についての情報があると地方公共団体の後押しになるのではないか。
- ・ サービスの質の向上の可視化・定量化については、選定基準の設定方法との関係で大きく変化する可能性があり、誤解を招かぬよう留意する必要があるのではないか。
- ・ サービスの質の向上については、段階を分けて考えるべき。事前段階では目安として過去の実績の例示、選定基準作成段階では様々な事例の紹介、事後段階では政策評価手法としての活用が重要ではないか。
- ・ 応札する側の立場で到達目標やアウトカム指標を体系化して示す必要があるのではないか。
- ・ 現状では多くの基準や指標が優先順位もなく混在したまま提示されることがあり、発注者の意図を明確にする必要があるのではないか。
- ・ 評価基準はサービスを調達する公共側のメッセージでもあり、サービスの水準を数値化するという意味もあるのではないか。また、数字で出すことで遂行責任を伴うものにもなり、提案内容の信頼性や確実性の評価にも資するのではないか。

[リスク分担に関するもの]

- ・ 事業者の立場から最大のリスクは、期中の価格上昇であり、サービス向上分の比率に配慮すべきではないか。
- ・ リスクワークショップは、前例のない案件や大規模な案件に対して有効ではないか。
- ・ リスクワークショップは受注者側からも意見を聞く必要があるのではないか。
- ・ リスクワークショップは発注者側がリスクを明確化するものである。また、料金収入を伴うような案件ではリスクの分配の問題も出てくるのではないか。